



植物学の聖地 牧野記念庭園に万葉の植物が甦る！

企画展「万葉の植物 牧野富太郎とまぼろしの図譜」

事前のお知らせ

と き 6月7日(土)～7月27日(日)
午前9時30分～午後4時30分 火曜休館

と ころ 牧野記念庭園記念館 (東大泉6-34-4庭園内) 入場無料

世界的な植物学者で、練馬区に居を構え「日本の植物学の父」と呼ばれた牧野 富太郎博士(1862-1957)の住居跡を整備した牧野記念庭園で、「万葉の植物 牧野富太郎とまぼろしの図譜」と題された企画展が6月7日(土)から開催される。

牧野富太郎は、昭和戦前期にかけて「万葉集」に登場する植物に関心を抱き、画工の水島南平などに数多くの万葉植物図を描かせた。牧野富太郎はこれらの図をまとめて「万葉植物図譜」として刊行する予定でいたが、実現されることはなく、それはまぼろしの図譜となった。

本展では、未完のまま牧野富太郎の手もとに残され、近年までほとんど公開されることのなかった約80点の万葉植物図を展示し、牧野富太郎による万葉植物調査の全貌を紹介する。また、期間中には学芸員による展示解説も開催する。



水島南平 筆 ムギ

【「万葉集」で詠まれている植物について】

日本に古くから伝わる「万葉集」には約160種類の植物が詠みこまれている。その中にはアカネ、イネ、キキョウ、ナツメ、ムラサキなど人々の生活に関わりが深く、食用や薬用、染料となる植物が含まれている。

【牧野記念庭園の紹介】

牧野富太郎博士が大正15年から94歳で亡くなる昭和32年まで居住し、自らが採取してきた植物を植え、「我が植物園」として愛した住居跡を整備した庭園。



水島南平 筆 ヒルガオ

牧野の死後、この植物学ゆかりの聖地を広く一般に開放し、牧野の偉業を未永く後世に伝えようと、練馬区が昭和33年に開園した。園内には300種類以上の草木類が植栽されており、スエコザサ、センダイヤ(サクラ)、ヘラノキなど、大変珍しく学問的にも貴重な植物も多数見ることができる。

交通案内：西武池袋線「大泉学園駅」南口下車 徒歩5分

開園時間：午前9時～午後5時 / 入場無料

休 園 日：火曜日(火曜日が祝休日にあたる場合は開園、その直後の祝休日でない日を休園)および年末年始

【問い合わせ】花とみどりの相談所 電話03-3976-9402